

## 令和4年度自己評価シート（年度末）

学校名 三次市立三良坂中学校

中期経営目標						
	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当部等
1	<b>【確かな学力】</b>	生徒指導の三機能を基盤とした「みらさか」プロジェクト学習により、主体的に学ぶ生徒を育成する。	①各種学力検査の平均正答率が全国平均を上回る。 ②各種学力検査において、30%未満の生徒を0人にする。 ③自主学習ノートの提出率を全体70%以上にす	4	①全国学力学習状況調査 国語 66%(全国 69%) 数学 45%(51.4%) 理科 53%(49.3%) ・三次市学力到達度検査 1年 国語 68.8(全国 59.0) 社会 61.2(61.5) 数学 59.7(50.9) 理科 59.4(56.9) 英語 57.7(51.4) 2年 国語 77.0(68.5) 社会 53.1(48.7) 数学 50.0(50.5) 理科 52.9(48.8) 英語 56.3(54.2) ②全国学力学習状況調査 国語 1人 数学 8人 理科 2人 ・三次市学力到達度検査 1年数学 1人 1年理科 1人 2年数学 1人 2年理科 1人 2年英語 2人 ・研究主任は常に連携し、教育実践を進めた。 ③提出率 1年 96.2%→97.5% 2年 83.3%→86.9% 3年 97.6%→95.3% 全体 92.4%→93.2%	教務部
	チーム学校による学力保障 <b>【教務】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業と関連した質の高い課題100%提出への組織的な取組</li> <li>・基礎・基本の確実な定着のための帯学習や補充学習</li> <li>・小中合同教務部会による分析と検証</li> <li>・ICTの効果的な活用</li> <li>・各種検定試験の受検推進と合格率の向上</li> </ul>				
	生徒が主体的に学ぶ授業 <b>【教務】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の三機能を生かした「みらさか」プロジェクト学習の授業の研究実践(単元開発一人一単元以上)</li> <li>・授業の「振り返り」の充実による「自己調整力」の向上</li> </ul>	①「プロジェクト学習」の単元開発を一人一単元以上実施する。 ②「めあて」に対応した「振り返	3	①学期終了時での実施率 (年度終了時の目標100%) <u>50.0→57.5%</u> ②学期終了時での実施率	教務部

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成する資質・能力「自己の学びを調整する力」と「対話力」のルーブリックを日常的に意識して指導する。</li> <li>・計画的に小中合同授業研修を実施 (学習指導案を書き、指導案検討、模擬授業、研究授業で互いの授業を参観し協議)</li> <li>・互いの授業を、日常的に参観する。</li> </ul>	り」の100%実施。 ③i-check「学習習慣・意欲」「思いを伝える力」80%以上。	83.3→87.5% ③「学習習慣・意欲」 1年 84.7% 2年 46.4% 3年 79.7% →75.0% <u>全体 70.3%</u> →68.7% 「思いを伝える力」 1年 66.7% 2年 54.1% 3年 68.0% →68.0% <u>全体 62.9%</u>
--	--	--	---

【評価結果の分析】

・チーム学校による学力保障【教務】(観点別の全国平均との差)

①② 全国学力・学習状況調査(3年)

国語【知識・技能】0.0【思考・判断・表現】▲6.5

数学【知識・技能】▲6.0【思考・判断・表現】▲7.2

理科【知識・技能】0.3【思考・判断・表現】5.1

三次市学力到達度検査(1・2年)

平均点で見ると、全国平均とほぼ同程度となった。学習内容を確実に定着させるため、全国学力・学習状況調査の課題分析を授業改善に生かしている。

放課後補充学習

3年生は、地域の方々のご協力を得て放課後の補充学習を行っており、主体的に学習に取り組み、学力を伸ばしている。

③今年度は一週間ごとにノルマのページ数を課して取組をスタートした。内容に課題がある生徒がいるものの1学期の全体の提出率が92.4%と昨年度に比べて大幅に向上した。1・2学期では、3年の提出率が若干下がったものの、1・2年が上昇し、全体の提出率が0.8%増加した。

・生徒が主体的に学ぶ授業【教務】

①各学年で、全学年で年度に1回は「プロジェクト学習」の単元開発を行う。(8人中)

ア 全学年で実施した 2人→3人      イ 二学年で実施した 2人→2人

ウ 一学年で実施した 2人→1人      エ 実施していない 2人→2人

②「めあて」に対応した「振り返り」の100%実施(8人中)

ア よく当てはまる 4人→2人      イ やや当てはまる 4人→5人

ウ あまり当てはまらない 0人→1人      エ 当てはまらない 0人→0人

③「学習習慣・意欲」に関する質問項目で全国平均以上の質問内容

1年：8問中8    2年：8問中3    3年：8問中8→7

○3年で平均より数値が低いのは「不思議に思うことを調べている」

2年で全国平均より数値が低い質問項目「自分で勉強の計画を立てている」「授業の予習や復習をしている」「間違えたテスト問題はやり直している」「ノートを工夫している」「不思議に思うことを調べている」

「思いを伝える力」に関する質問項目で全国平均以上の質問内容

1年：8問中8    2年：8問中7    3年：8問中8→すべて平均以上

【次年度に向けての改善方策】

・チーム学校による学力保障【教務】

①② 国語 特に全国平均と比較して課題が見られた3つの設問(1三・3一・3三)に関して共通するのは、対応させて考えるということである。この3問は、設問の内容が本文の表現を言い換えた形で書き表されており、それを的確に読み取る必要があるが、対応させてとらえることができなかったことが主

な原因であると分析する。そこで、同じ意味で使われている言い換え表現に注目させたり、主要な表現を要約させたりする活動を仕組み、読解力と表現力の向上を図る。

2学期には、各単元の中で言い換え表現を意識的に捉えさせる活動を行った。その際、文字数を指定して考えさせることで、多様な言い換え表現があることに気づかせ、作者や筆者の主張の意図を読み取らせるように工夫した。その結果、3学期の学年末試験において、言い換え表現として出題した設問の正答率は76%であった。さらに、自分の表現に役立てられるように表現活動を取り入れていきたい。

数学 「図形」と「数と式」の分野でのマイナスが大きい。具体的には「必ず平行四辺形になるとは限らないことを示すためには、反例を1つ示すだけでよい」ことや「 $2n + 2n = 4n$ の式に $n = 9$ を代入した式で表す」ことに課題が見られる。これらは一般化されたものを具体化して考える内容である。公式を一般化して用いるだけでなく、具体的に代入したり、いろいろな四角形の形をかいて身近なものとして考える学習をしていく必要がある。2学期には、計算確認プリントを毎週配布し計算や証明問題の形の確認を行った。また、図形分野ではGeoGebraという図形ソフトを用い、生徒自身に平行四辺形や長方形の頂点を動かしてそれらの性質について考えさせた。今後もICT機器を用いたり、生徒自身が活動して考え説明したりする授業を増やしていきたい。

理科 【知識・技能】と【思考・判断・表現】の両方で全国平均を上回ったが、【知識・技能】の全国との差が小さい。学習内容と日常生活を関連づけて考える力を養うことが必要である。【思考・判断・表現】については「気象」について、天気図と観測データ等を多面的、総合的に検討することが十分でなかった。学習内容を活用し、実験等の結果を分析、解釈し多面的・総合的に検討する学習を工夫する。

2学期以降は、各学年、学習のねらいを明確に示し、実験を多く実施するようにした。その際、予想を立て、実験方法を理解させて実施し、結果の分析、考察で学習課程を振り返る展開を行った。また、単元の学習前の自分の考えと学習後の考えを比較して、学習の深まり、見方・考え方の深まりを生徒が自覚できるようにした。日常生活と関連づける授業をさらに工夫したい。

③ 今年度、「自学フェスティバル」を実施しノートの質の向上を図った。又また良い自学ノートをHPに載せたりして広く紹介した。生徒の学習を調整する力を育成するためにこの取組を継続する。

・生徒が主体的に学ぶ授業【教務】

① 2学期終了時での実施率は62%である。3学期で各教科100%の達成が見込まれる。次年度もこの取組を継続する。

② 「めあて」に対する「振り返り」は毎時間行わねばならないものではなく、単元の要所で効果的な「振り返り」を計画することが必要である。自らの学びを振り返ることで自己調整力を向上させ主体的な学びにつなげていくためにも、次年度は「振り返り」の意義を再度確認して取組を進めたい。

③ 基本的な学習習慣を身に付ける取組を、安心できる学級集団づくりと並行して進める。

2 【豊かな心】 集団の力を高め、豊かな感性と自己指導能力のある生徒を育成する					
主体的な生徒会活動 【生徒指導】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会、生徒会の自主活動の推進</li> <li>・執行部、専門委員会を中心とした日常的な「課題発見・解決」のサイクルを回すこと。</li> <li>・小学校児童会と中学校生徒会の連携強化</li> <li>・地域の方々との意見交換会、他校との意見交換会</li> </ul>	①生徒会行事の企画書、実施要項などの生徒会作成率80%以上 ②生徒会月間目標を達成した生徒の割合90%以上	4	①生徒作成は、100%を達成している。 ②月間目標の達成率は、全体で60.0%となった。 1年 67.6% 2年 33.3% 3年 79.3%	生徒指導部

<p>集団の質的向上を図る 【生徒指導】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的生徒指導を進め、生徒の自己指導能力を高める。</li> <li>・いじめ認知解決 100%の取組</li> <li>・生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し、面談とSCによるカウンセリングの実施</li> <li>・小中合同生徒指導部会の開催</li> </ul>	<p>①いじめ認知解決 100% ②小中合同生徒指導部会を学期に2回以上実施</p>	<p>4</p>	<p>①1学期中に2件認知し、どちらも解決に向けて取組んでいる。 ②小中合同で全体会を2回、生徒指導主事や行事の担当者は随時連携を行った。</p>	<p>生徒指導部</p>
<p>道徳教育の充実 【教務】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値の自覚を深める授業研究を行い、小中合同授業研修を実施</li> <li>・道徳科と生活をつなぐ掲示物の実施</li> <li>・全教職員による道徳科の指導</li> <li>・互いの授業を日常的に参観する。</li> </ul>	<p>①道徳科小中合同授業研修を1回以上実施 ②各学年一人一項目の授業の実施 ③「自分のためになっている」と感じる生徒の割合 85%以上</p>	<p>4</p>	<p>①小学校3年生、中学校1年生で実施 ②年間計画に沿って実施している。 ③1年 94.1%→94.4% 2年 73.3%→73.3% 3年 100%→94.7% 全体 89.2%→87.3%</p>	<p>教務部</p>

【評価結果の分析】

・主体的な生徒会活動【生徒指導】

①生徒会行事等の実施まで、念入りに打ち合わせをしながら協力して取り組み、責任をもって各自の役割を果たすことができた。また、生徒会担当や委員会顧問の先生方と連携を取りながら活動することができた。

9月に三次市内中学校生徒会がオンラインで研修会をもち、執行部員が参加し意見交流を深めたり、活動の視野を広げたりする機会になった。

②生徒会月間目標を達成した生徒の割合を90%以上に設定していたが、全体で60.0%となった。各学年の学級委員が周知していなかったり、個々の月間目標への意識が低かったりした。

・集団の質的向上を図る【生徒指導】

①加害生徒、被害生徒への聞き取りや改善に向けた指導に取り組んだ。家庭連携も行った。その後の生活の様子について、経過観察や面談からも対人関係は落ち着きを取り戻している。また、定期的に生徒アンケートや保護者アンケートを実施し、「わからない」と回答した場合も面談で聞き取りをして把握に取り組んでいる。その他の具体的ないじめの事象は認知していない。

②小中で生徒実態交流も含め、連携をしながら行った。児童・生徒への指導において、学年間で捉え方に差があらわれないように、みらさか学園の生徒指導規程を再確認しながら進めることを確認した。

小中合同で行う行事も多く、児童生徒に充実感、達成感をもたせるよう計画し、指導に取り組んだ。

小中の担当者を中心に行事の起案、打ち合わせ、関係機関との連携など、広く情報共有を進めた。

③生徒会執行部と生徒指導規程の見直しを行い、生徒の自己指導能力を高めた。

・道徳教育の充実【教務】

①7月7日、小学校3年生（田村教諭）中学校1年生（芳賀教諭）で実施した。

②内容項目の中から、教職員が1人1項目を選び、学級担任と連携した授業を行っている。

③1学期末と比較して、1年は0.3%の増加、2年は変化なし、3年は1.9%減少した。全体として89.2%から87.3%1.9%の減少となった。

【次年度に向けての改善方策】

・主体的な生徒会活動【生徒指導】

- ①見通しをもって生徒会行事の企画や準備を行い、計画的に実行できるよう協力体制を整えさせる。また、報告・連絡・相談することを意識化させ、担当したことをやりきらせる経験を積ませていく。
- ②月間目標は前の月までに設定し、月初めには教室掲示できるよう学級委員会で計画的に進めていく。  
また、各学年の学級委員は週初めに声掛けをしていく。教室等への掲示を継続する。
- ③3学期は新体制に移行しており、執行部や専門委員長から来年度の活動に向けた企画や体制づくりに取り組んでいく。

・集団の質的向上を図る【生徒指導】

- ①生徒アンケートの記載内容から、該当生徒との面談を行い、学年会や生徒指導部を中心にSCとの連携を進め、いじめ防止委員会でも情報共有し、経過観察を続けている。今後も教職員の初動体制を確保していく。
- ②生徒指導規程の見直しについては、三次市教研の生徒指導部会での情報交流等を参考にしながら、来年度実施できることを優先し、具体的な取組を進めていくことを確認した。  
9月以降、生徒会執行部との話し合いを進め、改訂の基本方針に沿ったものから教職員連携、小中連携を行いPTA連携と児童、生徒への周知期間を持ち2月から移行している。今後も見直しには継続して取り組むこととしている。

・道徳教育の充実【教務】

- ①②全教員が全学年の道徳の授業に関わることで負担を軽減でき、個々の指導力向上に繋がっている。生徒には物事を広い視野で多面的に捉えさせ、道徳的な判断力、心情、実践しようとする意欲をもたせるためにこの指導体制を継続する。
- ③3学年の授業に重点を置き、道徳教育を中心とした教育活動を組織的に取り組む。

3 【健やかな体】基礎体力の向上と部活動の充実を図る					
体力の向上 【生徒指導】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒への指導、保護者との連携、保護者啓発による基本的生活習慣の確立（三点固定）</li> <li>・自己指導能力をもち、SNSを使う。「ストップ9」に小中で取り組む</li> <li>・体力づくり計画による体育授業の実施・新体力テストの課題種目の再実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就寝時刻の23時までの達成率を80%以上</li> <li>②新体力テストにおいて、前年度の記録を上回る種目4種目以上</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 1年 83.3%→81.3%</li> <li>2年 80.0%→73.4%</li> <li>3年 45.5%→54.5%</li> <li>全体 67.3%→67.9%</li> <li>② 1年男子8種目 1年女子4種目 2年男子5種目 2年女子5種目 3年男子5種目 3年女子1種目 平均4.7種目</li> </ul>	生徒指導部
部活動の充実 【生徒指導】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を育てる場としての生徒指導</li> <li>・生徒の自主的な活動の推進</li> <li>・定期的な部長会を実施し、リーダーを育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①部活動に対するの肯定的評価を80%以上にする。</li> <li>②学期に3回以上、部長会を実施する。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 1年 95.2%→94.1%</li> <li>2年 83.3%→60%</li> <li>3年 94.4%</li> <li>平均 91.6%→82.8%</li> <li>②部長会実施回数 1学期 3回 2学期 3回 3学期 2回(予定)</li> </ul>	生徒指導部

【評価結果の分析】

・体力の向上【生徒指導】

- ① 2学期に実施した「生活リズム（三点固定）振り返り週間」の目標達成率は、1年生81.3%、2年生73.4%、3年生54.5%で、全体では67.9%だった。1学期と比較して、1年生は-1.8%、2年生は-6.6%、3年生は+9.0%、全体では-8.8%となった。

- ② 新体力テスト実施8種目のうち、前年度の記録を上回った種目は平均4.7種目であり、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびを伸ばした学年が多かった。学年別では1年男子が全種目前年度を上回っており、種目別では、20mシャトルランが全学年男女とも前年度を上回っている。トライアルに挑む姿勢や周囲からの声掛けなどで記録を向上させる手助けになった。

・部活動の充実【生徒指導部】

- ① 運動部、文化部とも他校と合同で活動することが増えているが、対外活動に出場することができ、日常活動の励みにすることができた。生徒の姿から、3年生は成果としてあらわれたことを自信として達成感を得て引退をすることができた。一方で、中間評価では2年生の部活動に対する肯定的評価は83.3%であったが、最終評価では60%まで下がった。これは、3年生が引退したことで、2年生が中心となって部活動を行っていくなかで、うまくいかないことや難しさが出てきたことが主な原因であると推測する。
- ② 部長会にて部活動ミーティングの打ち合わせを行い、その後、部活動ミーティングにおいて各部で各学期の部活動目標を決め、それを学期終わりに振り返りをするという活動を行った。部活動目標を学校生活とつなげることで、目標を意識して日常生活を送る生徒が増えた。また、2年生中心となる部活動の新体制においても部長会や部活動ミーティングを行うことで、2年生が少しずつリーダーとしての自覚をもつことができた。

【次年度に向けての改善方策】

・体力の向上【生徒指導】

- ① 23時までに就寝した生徒の割合を80%以上と設定していたが、全体の67.9%となった。24時以降に就寝した生徒は12.7%から5.7%に減少しているものの、就寝時刻が遅く固定化している生徒が一定数いることに課題がある。小学校と連携し、継続して生活習慣を見直す機会を設定するとともに、今後は保護者啓発を強化し、家庭と連携して取組を進めていく必要がある。
- ② 前年度よりも記録が向上した学年や種目が増えている。特に昨年度の課題であった20mシャトルランの記録向上が顕著である。自己記録を向上させた生徒が多い中、3年女子が5種目低下させていることが課題である。今後も運動量を維持し、活動機会を確保していく。冬季の保健体育授業も運動量を維持するよう取り組む。

・部活動の充実【生徒指導部】

- ① 新3年生が中心となり部活動を行っていくうえで、感じている困り感を減らすことが課題である。生徒同士や生徒と教員の対話を通して、新1年生が加わった新体制がうまく構築できるようにすることが必要である。また、季節部の開催も含めて期間限定な中でも目標をもたせ、充実した活動を進めるよう指導していく。
- ② 次年度も部長会や部活動ミーティングを定期的に行い、部活動目標と学校生活をつなげることで意欲的に部活動を行うことができるよう工夫していく。また、これらの活動などを通して、リーダーの育成を行っていく。

4 【信頼される学校】小中一貫教育、「学びの変革」を推進し、地域、県内への情報発信を図る業務改善を進める				
小中一貫教育の推進 <b>【総務】</b> <b>【教務】</b> <b>【生徒指導】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたい資質・能力を小中で共有し発達段階に応じた系統表を作成</li> <li>・小中合同分掌会を計画的に開催する。小中で動く仕組みを確立</li> <li>・小中合同授業研修、各部会、公開研究会を組織的に推進</li> <li>・育てたい資質・能力を明確にし、地域力を生かしたカリキュラムの実施</li> <li>・異年交流活動による自己肯定感の向上</li> <li>・業務改善の推進</li> </ul>	①小中合同分掌会を毎学期2回以上実施 ②「地域のために何かしたい」の肯定的回答70%以上 ③業務改善に関する教職員アンケートの実施と検証、改善	<b>3</b>	①小中合同分掌会 1学期2回実施 2学期0回実施 ②生徒アンケート 「地域のために何かしたい」 1年 81.8% →88.8% 2年 53.3% →53.3% 3年 77.8% →80.0% ③業務改善に関する教職員アンケートを実施 「2学期開始時点に比べて業務改善は進んでいるか」 肯定 50.0% →71.4%
				総務部 教務部 生徒指導部

**【評価結果の分析】**

- ①2学期は小中合同分掌会議を設定することができなかったが、日常での連携を行った。
- ②育てたい資質・能力を「自己を調整する力」「対話力」「郷土愛」として、地域の人・もの・ことを題材とした総合的な学習の時間を展開している。生徒アンケートでの「地域のために何かしたい」の肯定的回答は若干上昇した。
- ③業務改善については、2学期始めよりも進んでいるという回答が71.4%であった。ただし、年度当初の方針を年度途中で変えられない事項もあり、それに対して業務改善が進まないと考える意見もあった。

**【次年度に向けての改善方策】**

- ①コミュニティ・スクールの推進の中で、小・中の取組の交流を図りながら活動を充実させていきたい。
- ②来年度から実施するコミュニティ・スクールに向けて、コミュニティ・スクール導入準備委員会において共に育みたい力の一つとして「郷土愛」を設定した。来年度からは保護者・地域とのつながりをさらに強め、三良坂町への愛着や誇りを高めていけるような学校教育活動を展開したい。
- ③業務改善に関する教職員アンケートをもとに学校衛生委員会で改善策を立案し、業務改善を進めたい。またコミュニティ・スクールの制度を生かして、保護者や地域の方の参画をさらに進めたい。

評価

評価基準（目標値に対する達成度）

	40%未満		40～60%未満		60～80%未満		80～100%未満		100%以上
1	まったくあてはまらない	2	あまりあてはまらない	3	ややあてはまる	4	よくあてはまる	5	目標を上回った